

第7回 生物多様性神戸プラン推進委員会 会議録

日 時：平成 31 年 3 月 28 日（木）10：00～12：00

場 所：市役所 3 号館 3 階 環境局大会議室

出席者：武田委員長、橋本委員、花田委員、横山委員、安井委員、山本委員、長岡委員、平岡委員、斉藤委員

議事内容：

1. 平成 30 年度における生物多様性保全に係る施策の実施状況について

【事務局より次の資料に基づき説明】

資料 1 平成 30 年度 生物多様性保全に関する主な実施施策

資料 2 平成 30 年度 生物多様性保全に関する各局施策の実施状況

資料 3 生物多様性神戸プランに定める数値指標の達成状況

●橋本委員

神戸市生物多様性の保全に関する条例（以下「生物多様性条例」という。）に基づく土地の形状の変更及び工作物の設置に関する届出内訳として、ソーラーパネルについての届出件数は、大半を占めているのか。また、事後もチェックしているのか。

●事務局

ソーラーパネルについての届出は 5～6 件あった。希少種の生息情報がある場所での設置はなかった。特段、環境に影響がありそうなものについては、事後報告を求めることにしている。実際にまだ動いていないが、もし何か必要があれば、現場に見に行くことはあると思う。

●斉藤委員

今年度、「神戸市太陽光発電施設の適正な設置及び維持管理に関する条例（以下「太陽光発電条例」という。）」を制定した。7 月から施行する。生態系に配慮することや、緑地率等の基準を設けている。その条例に基づき、ある程度は太陽光発電についても確認できることとなる。

●橋本委員

私が環境審議会委員をしている加古川市では、ソーラーパネルの設置件数をモニタリングしているが、設置面積は計測できていない。神戸市でのソーラーパネルの設置件数、箇所、GIS 情報、面積等は、調査できているのか。

●事務局

太陽光発電条例の施行に合わせ、既存の10kW以上のいわゆる業務用太陽光発電の地上設置基数は約750~760基ではないかと推測している。一方、経済産業省FIT制度での登録件数は、2,000件程度であり、来年度、アンケート等を実施して詳細を把握する予定である。新たに設置する太陽光発電は、条例により規制し、自然環境の保全を図ることとしている。

生物多様性条例のこれまでの太陽光発電の届出では、既に空き地、工場跡地等になっている所に、太陽光発電を設置するものであり、森林伐採をするものはなかった。森林伐採をするものは、兵庫県の条例、あるいは今年10月からは、神戸市の太陽光発電条例に基づき、何らかの環境対策をして太陽光パネルを設置することとなる。

●武田委員長

池の上での太陽光パネルの設置はあるのか。

●斉藤委員

ある。西区である。新しい太陽光発電条例では、そのようなものも規制対象とし、ため池の面積の50%以下の設置となるように規定している。

●長岡委員

- ① 資料1の3ページのアカミミガメの市民団体による防除については、広く一般市民が参加できるものであるか。
- ② 資料1の8ページのゴルフ場観察会は、昔はゴルフ場で農薬を多く使用しているイメージがあったが、このような場所で観察会を開催していると知り、おもしろいと思った。このようなイベントが増えていけば良いと考える。市民との協働でボランティア等も参加されているのか。
- ③ 資料1の11ページ食都神戸の事業について、たまたま知った取り組みだが、地下鉄県庁前駅で、地下鉄を使って運んだ近郊野菜を販売するイベントがあるようだ。神戸市もこれに関わっているか。最終日には、残りの野菜をハーバーランドに持って行き、残った野菜でカレーを作るとのこと。地域で生産する食べ物、一次産業に関心をもってもらう取り組みは面白いと思う。
- ④ 資料3のこうべ版GAP登録について、目標とする登録人数が伸びていないようであるが、そのネックがあれば教えてほしい。

●事務局

①アカミミガメの防除の取り組みについては、団体から申請を受けて、神戸市が補助する形であり、実施については団体のやり方に任せている。例えば、平野ふれあいのまちづくり協議会は、まちで行うイベント時に広報して、一般の参加者と一緒にアカミミガメ防除を実施している。神戸市ではオープンにしていない。

●長岡委員

このような団体の取り組みが一般へのアプローチ、つなぎ手になるかと思ったので、お尋ねした。市民団体が「このような活動をやる」と市がメッセージを出したら良いと思う。

●事務局

②ゴルフ場の親子自然体験は、神戸市は人口が減っているということで、その対策に、新たな神戸の魅力発見の取り組みとして試行したものである。小学校向けの出前授業の講師に依頼して実施したので、ボランティアに依頼はしなかった。今後は、NPO等との連携による開催も調整したいと考えている。

●長岡委員

良い取り組みだと思うが、市だけでは、複数回の開催、継続性等、大変と思われるので、ボランティアに依頼するという事も進めたら良いと思う。

●事務局

地下鉄を使って運んだ近郊野菜の販売イベントについては、情報を持ち合わせていないので、確認する。

●花田委員

神戸市営地下鉄で運んだ野菜の直販会イベントについての情報を紹介。

●事務局

花田先生、ありがとうございます。

④GAP登録人数の伸び悩みについては、GAP登録のメリットが伝わっていないのではないかというのが担当部局の考えである。橋本委員より、GAP登録の人数ではなく、その農地面積で確認したらどうかとアドバイスをいただいたが、耕作面積と登録人数の関係は、明確な数字は確認出来ておらず、耕作面積が減っていると人数も減るのではないかという程度の情報しか今はないので、今後、担当部署にも確認したい。

●橋本委員

農業センサスのデータを見ると神戸市においては5年に1割ずつくらい農業経営体が減っている。このような中で、こうべ版GAPに取り組む人数はある程度は保っていることもできる。先進的に取り組む農家の耕作面積としては増えているのかもしれない。面積の周辺の状況も合わせて評価した方がよい。ネガティブに考えなくても良いかもしれない。

●長岡委員

こうべ版GAPに取り組む人数とあわせて農地面積などのサブ情報も併せて書くようにすれば良い。

●花田委員

東京オリンピック・パラリンピックでは、調達行動について、GAP認証のある農家からの食材を使おうという動きがある。その関係で、GAP認証とこうべ版GAPは、どの程度関連があるのか。つながっていると2020年に向けてこうべ版GAPの登録を増やすことがあると考えられるがどうか。

●事務局

一般的なGAPとこうべ版GAPは、直接的には、つながってはいない。現在のところ神戸市内で一般的なGAP認証を受けている農家はない。

●花田委員

GAPとこうべ版GAPの内容を比べてみて、こうべ版GAPに取り組む農家に、このようなことを追加すれば、GAP認証に移行できるというように情報提供してさし上げたらどうだろうかと思う。

●事務局

KEMS（神戸版ISO）のように、まずは基本的なことから始めるということで「こうべ版GAP」があるが、こうべ版GAPからその上に行くステップが抜けていたのではないと思われる。その先まで考えた情報提供、ステップアップできるやり方に変えてはどうかということを担当部局には伝え、また、今後の展開も確認しておきたい。

●橋本委員

ビッグイベントとしては大阪万博があり、そのようなものも視野に入れながら、行動していったら良いのかと思われる。東京には距離があるが、大阪万博で地元の農産物を調達してもらえれば望ましい。（神戸市は関西広域連合に参加していることから）関西広域連合を通じて薦めてもらえば良いのではないか。

●花田委員

資料1の6ページの生物多様性シンポジウムに（コーディネーターとして）参加させていただいたが、若い方の参加が多く、パネル展示における玉ーアクアリウムや、キーナの森の学生森林整備隊「こだま」の事例発表など、若い方の発表が良かった。聴講者だけで

なく、登壇者・発表者にとってもシンポジウムは、青少年の教育の場、活動者の交流の場となっていて良かったという印象がある。

9ページの生きものさがしガイドについては、市内の配布先の小学3年生の実際の使い方アンケートを取られているか。取っているなら、各学校の授業での活用例（グッドプラクティス）を共有してはどうか。生きものさがしガイドはすばらしいので、是非活用していただきたいという思いがある。

11ページのファーマーズマーケットに関しては、東京・青山の国連大学前では、定期的にファーマーズマーケットをやっている。場所柄、国際色豊かでおしゃれなカフェ等あり、賑わっている。神戸もおしゃれであるし、ある意味ブランドがあるので、そのような場所で生産者と消費者を結ぶということに意味がある。是非ファーマーズマーケットを定期的に開催してほしい。例えば青山ではお茶をテーマにするなど、イベントにテーマを持たせている。神戸のファーマーズマーケットも神戸らしいイベントにされると更におしゃれで話題性ができると思われる。

資料3の生物多様性モニタリングについては、目標値を達成している。システムを変えるとすると更に利用が増えるのではないか。

●事務局

生きものマップについては、今のシステムのやり方が種名から入力が必要など難しく、また、スマートフォンに対応できていないので、対応できるシステムに移行を考えている。

●花田委員

システムが変わるとまた利用が増えるとも思われるので、目標を少し見直す必要があるかもしれないと思った。

質問であるが、温暖化の影響かどうかわからないが、海の生きものが随分変わってきているという話を聞く。貝や海岸にうち上げられたものなど、海の生きものの多様性の情報はお持ちか。明石市で今年はカキがとれなかったという話をお聞きした。

●安井委員

生物多様性に関し、農業での取り組みはあるし、里地、里山での取り組みもあるが、里海の取り組みがほとんどない。今年、大阪湾ではイカナゴがとれていない。3年前から漁獲量が急減している。アナゴ、カレイもとれない。ハマグリやアサリも大阪湾の漁獲量はほとんどゼロである。クルマエビ、シャコは姿が見えない。大阪湾の様子が変わってきている。

農家の野菜の直売の話があったが、大阪湾でいうと直売するものがマダイ、スズキ、ヒラメぐらいしかない。海の多様性の取り組みもやっていただきたい。

●事務局

海域の水質調査と一緒に生物調査は実施しているが、漁獲量から生物多様性を計るという観点では調査をしていないので、どの程度、獲れているかというデータについても確認しながら、里海について何ができるのか考えたい。

2. 平成 31 年度における生物多様性保全に係る施策の実施予定について

【事務局より次の資料に基づき説明。】

資料 4 平成 31 年度生物多様性保全に関する主要施策実施予定

資料 5 平成 31 年度生物多様性保全に関する各局施策の実施予定

(経済産業局農政部計画課の森林環境税を使った里山整備支援事業、里山しごと
つくるプロジェクト、東灘区のイノシシ注意喚起の広報活動などを紹介。)

●安井委員

- ① キーナの森でイシガメを放流と資料 4 にあるが、キーナの森はイシガメの生息環境に適さない。檻でも作り、人が管理するなら生息できるかもしれないが。池には、ジュンサイがあり、希少種情報のため非公開もいるが、イシガメの保全先としては不相当と思われる。
- ② アルゼンチンアリについてはどうなったか。
- ③ アライグマ対策に力を入れていただきたい。新在家で太ったアライグマが歩いていた。街中までアライグマがはびこっている。藍那では、アライグマがカスミサンショウウオを食べている。真剣にアライグマを獲っていただきたい。

●横山委員

アライグマ対策が平成 30 年度、平成 31 年度施策に書かれていない。神戸市でのアライグマの捕獲数は 2017 年度 1671 頭であり、年々増加している。アライグマが増えているので、捕獲数も増えている状況が続いている。自然環境共生課とアライグマ調査をやらせていただいて、既存の有害鳥獣捕獲だけでは捕獲が間に合わないの、山間部や水系でのアライグマ捕獲を提案させていただいた。平成 30 年度、平成 31 年度の施策にアライグマ施策が入っていないのはどういう理由か。

●事務局

キーナの森でのイシガメの放流は、1 つの案として考えている。取り組みを進めながら、適切な場所に放流したい。キーナの森でのイシガメの放流は、他の外来種にやられるので、特にアライグマ対策と併せて実施しないと適切でないと認識はしている。飼育の場所として適切かどうかは更に検討を進める。適地が他にあれば良いが、キーナの森は神戸市が管理する場所として、一例で挙げたものである。

人口のビオトープ、例えば東クリーンセンターや荇藻島クリーンセンターでも、イシガメの飼育をしているので、何らかの環境改善をすればできる可能性もあるので、ご相談しながら取り組みを進めたいと思っている。

●安井委員

灘浜サイエンススクエアではイシガメの飼育をしている。人工的な場所の飼育においてはメンテナンスが必要である。また、ある程度、生きものを知った人が世話をしないといけない。

●事務局

資料には簡単に書いてあるが、今回の事業は、もう少し幅広い絵を描いており、アカミミガメの防除活動している方を含めて、域外保全の活動をしている方をネットワークで結んで、いろいろな方向性をご議論いただき、ご助言をいただきながら進めていきたい。

●武田委員長

イシガメを放流したとしても、移動するし、広い面積が必要である。

●山本委員

一番の問題は、交雑である。クサガメや特定外来生物に指定されたハナガメを含めて、外来種とニホンイシガメは交雑する。交雑を受けていないニホンイシガメかどうか、その対策をどうやっていくか、早いうちに対応を考えないといけない。

●事務局

同じ河川でもすみわけをする等、そのようなことも含めて、今回のイシガメ保全の事業として対策についてご助言をいただきながら、配慮して取り組みたい。

●武田委員長

アカミミガメを駆除するとクサガメが増えるということはある。

●山本委員

クサガメも難しい問題である。

●橋本委員

自然界へのイシガメの放流については、保全に役立つから戦略的に放流するのか、それとも生息域外保全をしている場所のキャパシティが越えているから放流するのか。

●事務局

非公開の上流に、在来のイシガメと考えられるものが生息している。その種が絶滅する恐れがあるので、絶滅に備えて域外保全で数を増やしておくという趣旨である。DNA的にわからないものについては、域外保全から出さないということで飼育していこうと考えている。

キャパシティが越えているから放流という話ではない。域外保全をしている団体がある中で、話し合いしながら、数を増やし、DNAの問題がないものについて、自然に近いところで放流できるなら、放流先、放流方法等を検討しながら進めていくというものである。

●橋本委員

アライグマの捕獲圧を上げているわけではないのに捕獲数が上がっていることは問題と思われる。神戸市も広いので、重点的に生息密度を減らす場所等、ゾーニングをしないと対応できないのではないかと。理想的には全市で密度を一定以下にしないといけないが、一足飛びに出来ないのでは、重点的に獲る場所を検討していく必要がある。来年度は予算が確保できていないと思うので、平成32年度に向けて検討していただきたい。

公衆衛生上の問題があるということでのアライグマ捕獲の動きはないのか。

●山本委員

昨日、須磨区で警察と消防でアライグマを捕まえているのを見た。市に連絡しているところだとおっしゃっていた。

●事務局

現在、アライグマについては、公衆衛生という観点の動きはなく、農政の観点が主となっており、希望者に罾を貸し出す捕獲が主になっている。ゾーニングについては、全域でやっていくことはできないが、重要な部分を守っていくという観点で試行していきたい。

●横山委員

アライグマ捕獲については、数年前に提案した。そのやり方では難しいということであれば、どのように実施すれば良いか検討していかないといけない。

東京オリンピックや大阪万博等の機会にいろいろな疾病が入り込んでくる状況がある。アライグマは森林と里を行き来することから、人獣共通感染症の危険性が指摘されている。ここまで対策が進まないと言わざるを得ない。在来の疾病も増えている。

既存の団体にアライグマの捕獲にお願いするだけでは間に合わない。篠山市では既存の捕獲に加え、アライグマの水系での捕獲が有効で、数が減ってきている。協力してくれる人が少ないと言っている場合ではない。

アライグマは川に手を突っ込んでいろいろなものを食べる。藍那における調査では、ア

ライグマの希少種の食べ方は凄まじいものであった。

市町村としては、神戸市はアライグマ捕獲数が多い方かもしれないが、もっと対策をしなければならぬ。

●事務局

アライグマ、ニホンジカ対策については、環境部局と農政部局と連携がとれていない部分があることはご指摘のとおりである。農業政策と環境政策を融合する動きはある。連携して実施していくものとして、ニホンジカ対策は進めている。アライグマ対策については、全市を上げて連携して、先生方にもご相談させていただきながら、改めて実施に努めてまいりたい。

●武田委員長

環境問題は各部局でどの程度共有されているのか。共有するようにしてほしい。

●斉藤委員

神戸市は市長から、部局間の縦割りが強いという指摘があり「つなぐ課」が新設された。副局長も新設され、いろいろな局にまたがる問題を特化して取り組むこととなった。

保健福祉局は、アライグマ問題をあまり認識していないと思われる。農作物、生態系問題、人獣共通感染症、ペットに危害を加える等のアライグマ問題については、関連部局で情報共有し、危機感を持って対応していきたい。

●橋本委員

2月13日に神戸市の環境に関する各部局担当者の研修会（生物多様性に関する）の講師を務めた。このように、庁内で横のつながりを図る努力はされている。

アライグマと農政、アライグマと公衆衛生等、各部局と生物多様性という、いろいろな共通課題が考えられる。研修会時は、生物多様性に関する総論的な講義しかしていないので、今後、各部局とつながり、部会等で深めていってほしい。

アライグマに関しては都市の機能を低下させる状況が発生している。中山間部ではシカが増え、シカとの接触事故が起こったりしている。農業被害以外でも、都市の機能を低下させる可能性がある部分を含めて、環境部局から他の部局でも積極的に取り組んでいけるように働きかけていただきたい。

●横山委員

ニホンジカ対策については、今回、環境部局が先行して取り組んだため、局間で連携して取り組んでいる。昨年度、ヒアリ対策に注力したため、アライグマ対策が無くなっているかと思われる。アライグマはすべての施策が飛んでしまうくらい、かなり重い問題であ

るので、取り組んでいただきたい。

●花田委員

SDGsを使うと、各部局に横串が通ると考えられる。アライグマを例に、目標 11：住み続けられるまちづくりということを観点とすると、各局で課題が共有できるのではない。目標 14：海の豊かさ、目標 15：陸の豊かさもあるので、アライグマが在来種を根こそぎ食べる凶悪な存在であれば、力を入れてアライグマを減らさなければならない。

琵琶湖ではバスが減ってきている。ただ闇雲に獲るのでなく、卵を獲ると減ってきているという話である。アライグマは賢いと聞いている。罠の手前のえさを食べて、罠に入らないという話も聞いた。水辺で一気にアライグマを獲ると、アライグマが減ると思われる。

●斉藤委員

マスタープランの中でいろいろな施策をやっているが、その施策をSDGsとマッチングさせる作業をしようとしている。その中でいろいろな部局にまたがる課題について、調整していきたい。

●花田委員

単なる紐付けではそれだけで終わってしまうので、実際にやるときには、アライグマは格好の課題である。

●事務局

質問をいただいた②アルゼンチンアリの生息については、ポートアイランドに入ってから 20 年経っている。ポートアイランド、六甲アイランド、須磨区・垂水区区境において生息が確認されている。モデル事業的な駆除を実施している区域もあり、取り組んでいるところである。ポートアイランドでは、モデル的にヒアリ対策も合わせて、薬剤により駆除に取り組んだが、全面的な駆除は困難と考えられる。ポートアイランドは集合住宅であり、戸建てほどは被害の訴えがない。

●橋本委員

SDGsは効果があるが、目標の共通性を見出すためのマインドセットとしては役立つものの、SDGsの効果を過信しすぎないほうがよい。部会等を作ってアクションをすることが重要である。具体的な提案が必要である。人員が足りない、予算が足りないということはあるとは思いますが、最初の火種はつけていただきたい。

●事務局

花田先生のご意見としては、環境問題だと挙げると他部局が忌避してしまうので、共通

する課題として取り組むためには、まずはSDGsとして、次にアクションにつなげていくということだと認識している。

●花田委員

便利なツール、共通の言語と聞いている。別の部局の言葉でSDGsを語ってもらうと一緒に取り組める。

●事務局

一緒になってやるべきものだと認識していけたらと思う。

●武田委員長

他部局とも連携をうまくとっていただくのが一番かと思う。また、情報収集をうまく行っていただきたい。

●山本委員

昨年、須磨で台風の影響で大量のごみが打ち寄せられた。海浜植物を覆ったごみを取り除くため、自然環境共生課に相談したところ、管轄のみならず総局につなげていただき、迅速に対応いただけた。迅速に動いていただいたことに御礼申し上げる。

●武田委員長

多岐に渡って施策があるが、全てに職員が対応できるのか心配である。生きものの情報データベース化など、職員で対応できるのか。

●事務局

データベースについては、まずは情報提供いただけるのかというところから取り組んでいきたい。

●斉藤委員

職員も人員が増えるわけではない。委託できるところは委託しないといけない。市全体の問題として、社会の市民力の低下が考えられ、アライグマの問題もこのようなところから来ているのではないかと思われる。来年以降、ボランティア、市民の方々にご協力いただき、委ねるところは、委ねていきたい。

●武田委員長

自然観察会や出前授業など、協力いただけるものには市民にも協力いただいて実施した方が良くと思う。

●橋本委員

市民の方に協力いただくことは賛成だが、高齢化が進み、既存の団体が、数を減らしており、新しい人材が入りにくい状況である。働く人が増え、日中に居住地に人がいない状況なので、市民力に今までのように頼れなくなっていることも念頭に置いてほしい。

企業の連携がキーと考えられる。働き方改革によって、休暇の積極的な取得等も考えられ、現役世代が環境保全の活動に参加すること、地域活動に参加することが期待できることから、企業と連携していくのが良いと思われる。地域の自治会だけでなく、企業に働きかけていく必要があると考えられる。そのような取り組みが進むようであれば、協力していきたい。